




「謙虚であること」

皆さんは、二十歳を迎えるにあたって、人生において転機となった人はいますでしょうか？


私は、二十年間生きてきて、ある二人の恩師に出会いました。まず一人目は、小学校四年生から中学三年生までお世話になった塾の先生です。私は、小学六年生の時に今までの人生の中でとても悔しい経験をしました。自分が一生懸命頑張ってきたことが初めて結果に繋がるとは限らないことを実感し、その時の私は全てのことに對して否定的な考えを持ってしまいました。しかし、先生から「塞翁が馬」という故事成語を初めて教えてもらいました。「塞翁が馬」とは、人生における幸不幸は予測しがたく、幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないため、安易に喜んだり悲しんだりするべきではないという意味




です。私が落ち込んでいた時に直接的な励ましではなく、陰でそっと寄り添っているような言葉をかけてくれたことを今でも鮮明に覚えています。今でもその言葉は、辛い経験があった時にも前向きに捉えることができ、今の私の明るさやポジティブな考え方のベースとなり、何事にも失敗を恐れず挑戦することができるようになりました。

二人目は、高校時代に出会った数学の先生です。この先生は、授業外の時間や、自分自身の体調が優れない時でも、生徒の質問があれば一緒に考えてくれる先生です。

この先生との出会いで、苦手だった数学はもちろん好きになりましたが、それ以外でもあることを学びました。それは、「賢い人は謙虚である」ということです。先生は、自分の時間よりも、生徒が質問に来てくれる時には必ず対応をし、分かるまで教えてくれていました。私も何度も夜遅くまで学習に付き合ってくれました。その時に、本







当に賢い人というのは、自分のことよりも他人のことを優先して考えられ、常に謙虚な姿勢を持って行動できている人のことだと改めて実感しました。

また、先生の言葉の中で印象的だったものに、「優れた人は静かに身を収め、徳を養う。無欲でなければ志は立たず、穏やかでなければ道は遠い。」というものがあります。本当に優れている人は、学力問わず内面的にも優秀であり、そのために謙虚な姿勢は必要不可欠であるということの意味していると思っています。

今私は大学で、看護学を学んでいます。看護の祖であるナイチンゲールは、裕福な家系に生まれながらも、貧しい人や軍人を助け、看護環境を改善した先駆者とされています。現在の日本社会で、社会的に地位や権力を持っている人、頭の賢い学歴のある人は大勢いるでしょう。しかし、本当に賢い人というのは謙虚である姿勢を持ち、他人の





気持ちに寄り添うことができない人だと私は常に思っています。

この二十年間生きてきて、困難に当たった時、誰も誰かの助けを受け、ここまで人生を歩むことができたのではないのでしょうか？今日私たちがこの晴れの日、二十歳を迎えられたのは、私たちの沢山の周囲の人たちの支えのおかげです。二十歳となり、今まで手を差し伸べられていた立場から、困っている人の気持ちに寄り添い、今度は自分が助けを必要としている人へ手を差し伸べられる大人になりたいと強く思います。

大人の仲間入りとなった今、私の人生の転機となった二人の恩師や、ナインチンゲールのように、謙虚である姿勢をもち、他人のことを考えられ、行動できる大人になりたいと思います。

